

越前の粉屋さん新聞

発行所 増田そば製粉所
〒915-0003
福井県越前市戸谷町二丁目
TEL: 0778-25-1157 (本社)
FAX: 0778-24-2519
http://www.nasudasoba.com
info@nasudasoba.com

10月になりました。秋らしさが感じられます。 福井県産新蕎麦の収穫まであと少しですね!

蕎麦できょう

先日の福井新聞に「ソバ大幅不作予想」の記事が載っておりました。今夏の天候不順影響・・・種まき直後の雨によるソバの大幅な収量減を予想。ソバは7月下旬から8月上旬の台風や長雨で、種まき直しや根腐れが発生。「収量は不作だった昨年を下回る可能性もある」とした。因みに平成26年1月28日公表の農林水産省の農林水産統計では、平成25年のソバ収穫量について福井県は作付面積

においては長野県に次いで3,850haで全国4位であるが、収穫量は924tと前年(平成24年)の収穫量(2,154t)と比較して約43%と大幅な収量減でした。今年度も昨年度にもまして更に収穫量が減予想と厳しい状況であります。弊社管理しております栽培地におきましても、各地区を見て廻っておりますと場所によりかなり成育にムラがあり、まずまず成長している場所がある反面、一部におきましては収穫が期待できない

福井の観光



旧今立町山室地区H26.9.24

北陸の秋の風物詩「たけふ菊人形」。今年で63回目を迎える日本最大規模の菊人形。開催期間は10月3日から11月9日まで(期間中無休)。今年のテーマは「戦国の天才軍師黒田官兵衛」。会場には大菊、小菊、懸崖など一万鉢の菊花が咲き誇ります。時代絵巻を繰り広げる菊人形館ではつややかな菊人形が見事です。大劇場でのレビューや野外ステージでのショー、メリーゴーランドやバイキングなどがあるプレイランドなど、大人も子どもも楽しめる大イベントです。目玉1・世界最大級メガ菊人形昨年大好評だった約3メートルのメガ菊人形が今年も登場。大迫力のメガ

場所も見られます。幸いにも9月中はお天気の具合も安定しており、このまま10月下旬の収穫時期まで少しでもいい天候が続いて欲しいものです。

菊人形をぜひ会場で体感ください。目玉2・OSK日本歌劇団たけふ菊人形グランドレビュー2014「All as Del Amor」愛の翼〜真麻里都をトップにむかえ、華麗な歌と迫力のダンスを披露します。約60分のオリジナルショーをお楽しみください。その他にも色んな見どころ満載です!

北陸の秋の風物詩「たけふ菊人形」今年で63回目を迎える日本最大規模の菊人形

2014 たけふ菊人形

テーマ: 戦国の天才軍師 黒田官兵衛
日時: 平成26年10月3日(金)～11月9日(日)
会場: 越前市武生中央公園

「福井のコシヒカリ」は、昭和19年福井県から始まりました。当時は、注目度は決して高くありませんでした。しかしそれから十数年、幾度もの栽培工夫と改良を経て、昭和31年に「越前の国に光り輝く米」の願いを込めて、コシヒカリと命名。以後、全国各地へと広がっていったのです。昭和54年以来、コシヒカリは作付面積全国一を誇り、現在、作付面積の約37%を占めています。また、子にあたる「ひとめぼれ」「ヒノヒカリ」、孫にあたる「ハナエチゼン」、ひ孫にあたる「きらら397」などをあわせる

福井のグルメ

て福井県独特の気候や土壌、水もおいしさに、は欠かせない存在です。



ご飯だけでも美味しい!

編集長より

ブログ・FBでおなじみ?おなじみでない方もこんにちは。まずはー編集長です。10月になりました。朝晩がめっきりと寒くなってきました。福井県でも秋の味覚の収穫祭や地元のお祭りなど色々な行事ごとが多い月でございます。ついつい食べ過ぎ飲みすぎに注意の月です(汗)

粉屋近況

9月の下旬にお家の花壇にソバの種を播きました。数日後には少し土が盛り上がってきました。次の日朝起きて花壇を見てもみずと何やら文字が現れてき

ました。種を播く時にちよっとしたイタズラを・・・子供の名前になるように播いたのでした(笑)毎日毎日成長具合を観察しています。どれだけ収穫できるのかなあ?なんて言っています・・・



自宅の花壇にソバの種を播きました!

蕎麦雑学

製粉所の周辺でもソバを栽培しているのをご存知ですか。風に乗って匂いが漂ってきまして。ソバの花。純白で

なから鶏糞肥料のような匂いです。その理由はソバは食用作物のなかでも特に受粉が難しい仕組みなのですが、その臭い匂いは「虫を呼ぼう」と必死に頑張っている「ためです。詳しくは蕎麦栽培日記にて



蕎麦の花の匂いは???

「福井のコシヒカリ」は、昭和19年福井県から始まりました。当時は、注目度は決して高くありませんでした。しかしそれから十数年、幾度もの栽培工夫と改良を経て、昭和31年に「越前の国に光り輝く米」の願いを込めて、コシヒカリと命名。以後、全国各地へと広がっていったのです。昭和54年以来、コシヒカリは作付面積全国一を誇り、現在、作付面積の約37%を占めています。また、子にあたる「ひとめぼれ」「ヒノヒカリ」、孫にあたる「ハナエチゼン」、ひ孫にあたる「きらら397」などをあわせる

